

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

A チーム 記録者

発表者

(プロセス) ②
(テーマ) 物流
(選定理由) チームの意見が多かったため

I. 食品事業者として目指す べき未来像（目標の設定）

環境負荷低減のために他社同士で取り組み、事
業者の利益になることを目指す

①環境負荷低減

②事業者の利益になる

③他社同士で取り組む（技術の共有、物流のシス
テム共有）

II. 未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な 取組（目標を達成させるための提案）

①輸送の効率化、トラックの使用を減らす（ガソリン使用減少）、ダンボール統一化
（積載効率を上げるため）、期限延長

②包材の規格化、サステナブル推進企業を選ぶ意識づくり、使用しやすい包材・消
費者の購買意欲が上がる包材を使用（小売り企業に選ばれるため）、通い箱の使
用、期限延長（GLフィルムなどのバリアナイロンの使用、保管温度の検討、加熱殺
菌・冷凍技術の共有）

③消費者のニーズ調査、共同の物流システム使用

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

B チーム 記録者

発表者

(プロセス) 目指すべき未来像

(テーマ) 受けてのメリット

(選定理由) 譲る側・受け取る側の両者がWIN-WINな関係を築くことでより循環型の社会を実現するため

I .食品事業者として目指す
べき未来像（目標の設定）

持続可能な循環経済を築く
ために、譲る側と受け取り側
が納得がいく状況

II .未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な
取組（目標を達成させるための提案）

スマイルサーキュレーションの実現に向けた取り組み

①賞味期限・消費期限に代わる新しい期限設定

②取り組む方々への基準設定

③フードコミュニケーションの構築

例：受け取る側・譲る側の両者の顔が見える制度設定

④食品事業者全体で取り組みができる物流の構築等

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

C チーム 記録者

発表者

(プロセス) 回収・リサイクル

(テーマ) 消費者の「面倒くさい」の解消

(選定理由) 消費者の立場として身近。回収のわかりづらさからの解放

I .食品事業者として目指す
べき未来像（目標の設定）

プラスチックの廃棄ゼロにするため
に回収効率を高める

II .未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な
取組（目標を達成させるための提案）

- 分別
 - ・食品事業者が案内を作成。
 - ・同じマークがついていれば同じ分別ができるような機械の発明。
- 回収
 - ・マークがついているものはドローンが自動で回収するサービス。
 - ・ネットスーパー等の配送のついでに資源を回収するサービス。
 - ・Uberのごみ回収バージョン。
 - ・集めた資源を燃やして熱回収し、ドローンや機械の燃料に。
 - ・資源を入れておくスポットの設置

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

D チーム 記録者

発表者

(プロセス) ①設計・製造 ③販売・提供 ④消費

(テーマ) 消費者と企業がWINWINな関係を築く

(選定理由) 自然と消費者に循環経済に参加できるようにするため

I .食品事業者として目指す
べき未来像（目標の設定）

エコな活動に対して、複数の企業が参加
できる、共通のポイントアプリを作る

II .未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な
取組（目標を達成させるための提案）

- ◇ポイントの付け方を工夫する
 - ・買う時の選び方によって、ポイントの付き方が変わる
（例：エコ家電や期限が短い食品の購入など）
 - ・ポイントがランキング付けされる（高ポイント取得者ほど、還元が受けられる）
 - ・毎日ストレスチェックの点数によって、おすすめの食品がでてくる。
チェックすることで、ポイントがたまる
 - ・リサイクル製品をリサイクルするとポイントがたまる
 - ・エコの活動をSNSで共有するとポイントがたまる
 - ・マイバックを使用することで、ポイントたまる

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

E チーム 記録者

発表者

(プロセス) ②物流④消費⑤回収・リサイクル

(テーマ) 食品廃棄物を原料にバイオガス発電

(選定理由) 一般消費者に目に見えて成果が分かりやすい、興味関心を持ってもらえそうであるため

I .食品事業者として目指す
べき**未来像**（目標の設定）

- ・廃棄物から食品を生み出せる研究者の育成（教育面）
- ・食品廃棄物を原料にバイオガス発電を行うことを事業化（大規模に！）
- ・ガスの販売で得た費用によって、食品ロスについて考える教育施設やアミューズメントパークの設立（体験につながる）

II .未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な
取組（目標を達成させるための提案）

- ・食品ロスについての教育ができる環境の整備
→食育（教育や授業の一環に食品や食品ロスについて考えることを組み込む）
- ・消費者が自分事としてとらえられるようになるための窓口として機能
- ・行政の補助金制度の拡充（事業化へ取り組みやすくなる）
- ・学校などの教育機関が教育の場を提供
- ・発電に必要な食品廃棄物の回収方法の整備（家庭からの回収方法）
→回収場所の設定（現在は運搬コストの影響がハードルとしてある）
→回収量をPRとして活用

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

F チーム 記録者

発表者

(プロセス) 1 設計・製造、3 提供・販売

(テーマ) 廃棄物実質0など持続可能な社会につながる食品・包装

(選定理由) 消費者にもわかりやすく、環境に配慮した商品開発・販売が求められているから。

I .食品事業者として目指す
べき未来像（目標の設定）

食品・包装に関して、製造側の
みならず、消費者側と協同して
廃棄削減を目指す

II .未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な
取組（目標を達成させるための提案）

- ・フィルムごと食べられる食品の開発（熱変化等を利用）
- ・過剰包装等を減らし、製造側での廃棄削減を目指す（輸送時の緩衝材等の工夫）
- ・フィルムの厚みやフィルムの原料・素材の工夫
- ・消費者理解に向けた情報発信（容器持参の取組等）
- ・環境に考慮した購買行動を目指してもらうインセンティブの付与（ポイント付与等）
- ・メーカーと小売りのコラボにより、消費者の目に留まるような環境に配慮した商品の開発・販売
- ・製造で発生する廃棄物を餌として再利用

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

G チーム 記録者

発表者

(プロセス) ③販売・提供

(テーマ) 廃棄を発生させないための取り組み

(選定理由) 食品として利用することが重要・食品事業者の目線で話がしやすい

I .食品事業者として目指す
べき未来像（目標の設定）

食品ロスゼロを目指す！

II .未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な
取組（目標を達成させるための提案）

地域社会とのつながり・フードバンクとの協力

- 設計段階：どこで発生したものをどう取り扱うか決めておく
- 生産：野菜などで規格外のものを使用する
- 原料段階：産地状況等の影響により均一ではないため、廃棄部分が出る。細かい処理によって商品化の可能性がある。
- 製造段階：製造工程中で出てくる切れ端を商品化する（切り落としとして製品に）
- 製品在庫：年月表示のための賞味期限延長の検討
メーカーと小売業のやりとり（商習慣・賞味期限の近いものを割引きで販売等）
- リサイクル：製造途中で発生した廃棄物を肥料化する取り組み

食品事業者とフードバンクのマッチング

扱いにくい製品を扱ってもらうための仕組み⇒行政や非営利団体に取りまとめをしてもらう

食品関連事業者が①目指すべき未来像②その実現のために今後必要な取組を話し合っ
てまとめてください

H チーム 記録者

発表者

(プロセス) ①設計・製造

(テーマ) サーキュラーエコノミーの実証実験を行う街づくり

(選定理由) 循環経済の起点である「モノづくり」の取組を変えることで循環経済に大きな影響を与えることができるため

I .食品事業者として目指す
べき未来像（目標の設定）

実証実験／街づくり計画を通じて、
資源を消費者にとってわかりやすく、
かつ、効果的に分別回収・リサイクル
するモデルプロセスを作る。

II .未来像の実現のために、食品事業者として今後必要な
取組（目標を達成させるための提案）

資源の活用

- ・プラスチックバックの活用（リユースできる壊れにくいもの、再利用資源での設計）
- ・消費方法提案（量り売りなど）
- ・リサイクルボックスの設置

消費者への教育

- ・生産から消費の循環テーマパーク（農園とレストランなど）

環境配慮商品の技術開発

- ・紙ストローでも違和感ないものなど

行政・企業間のコミュニケーション

- ・エネルギーの循環、原料残渣の活用、物流（システム対応）

実験の有効性確認とPDCAサイクルの運用